

Youth Manna

マルコ1:35
さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/8/28(月)

士師記17章

この時代を表す鍵となることばが6節にあるよ。イスラエル全体が靈的に墮落していたんだ。

一見、神様を礼拝しているように見えるけれど、偶像礼拝をしていたり(3,4)、テラフィム(家の守護神。異教の国々の風習によるもの)を作ったり(5)、祭司の資格のない人を勝手に祭司に任命したり(5,12/祭司になれるのはアロンの家系のみ)……神様を恐れず、好き勝手な礼拝をしていた様子が書かれているね。

神様に従うと言いながら、自分の都合や損得を優先してしまうことはあるかな？真に神様を愛するとはどういうことだろう？

2023/8/29(火)

士師記18章

12部族の一つ、ダン族は自分たちの住む相続地を求めていた。彼らには相続地が割り当てられていたけれど、その地域を征服することができずにいたので、別の場所を攻め取ろうとしたんだ。

ダン族の行動は果たして神様が喜ばれるものだっただろうか。ミカの家のものを盗んだことや、それに対して何の罪意識も持たない様子も描かれている。ミカの家も、神様の御声を聞かず、自分の考えで人に都合の良いことばを語り、報酬の多さからミカを裏切ってしまう。何だか心の晴れない暗い気持ちになる箇所だね。

ダン族も、祭司も、ミカも、それぞれが17:6節のような歩みをしていた。今、神様に喜ばれる歩みとはどういうものか、考えて応答していこう

2023/8/30(水)

士師記19章

この箇所には、士師記の中で最悪とも言われる事件が記されている。具体的な時期は不明だが、イスラエルに王がいなかった時のことであった。

一人のレビ人が実家に帰ってしまった側女を迎えに行ったが、側女の父親は喜び、彼を引き止める。不思議なやりとりに見えるが、旅人をもてなすことを良しとしたヘブル人の習慣だった。やっと帰ることとなり、道中日が暮れたのでギブアに立ち寄ったが、誰も彼らを迎えようとしなかった。唯一老人が家へ招いたが、街のよこしまな者たちはレビ人を引き渡すよう要求した。これは、ソドムでロトの家に起こった出来事と同じである(創19:1-9)。結果、側女を差し出し、彼女は死ぬこととなった。

ここでは、ギブアのベニヤ民族の神から離れた不信仰な姿が記されている。神に信頼し、正しく歩めるよう祈ろう！

2023/8/31(木)

士師記20:1-16

レビ人は殺された妻を十二に切り分けて全部族に送りつけた。理解できないが、怒りのあらわれ、起こった現象を示すには十分だった。

会合でギブアのベニヤミン族の報復措置が決定されたが、ベニヤミン族はその決定に従わず、応戦する構えをみせた。一本の毛を狙って石を投げても外さないと表現されるくらいの精鋭たちが揃っていたおごりや、ベニヤミン族としての高慢、乱れがあったのかもしれない。それはもはや神の民として考えられない状況であった。

現代を生き、神様を信じる者として歩むあなたはどうか？みこころに生きている！キリストの愛を流している！と言えるだろうか？

2023/9/1(金)

士師記20:17-35

●ベニヤミン族に大敗を大敗したイスラエルは泣きながら主の導きを祈った。どうして彼らは泣いたんだと思う？28v

●僕らは教会の友達が神様から離れていくのを見た時、泣いて祈ることがあるだろうか。神のきよさを守るために、罪を曖昧にしてないことはできるだろうか？

2023/9/2(土)

士師記20:36-48

自分たちの強さを誇っていたベニヤミン族。だけど、イスラエル軍の作戦にハマり敗北してしまったね。

イスラエルがベニヤミン族の全てのもを剣の刃でうち、全ての町を燃やす必要があったのは、聖絶と言って神様のものとして取り分けるためだった。ベニヤミン族の犯した罪がそれほど重かったんだ。

神様は優しくもあり、同時に罪に対しては絶対にきよくあられる方だね。その神様が私たちを導いてくださることに感謝していこう！その導きに従っていけるよう祈ろう！

2023/9/3(日)

士師記21章

21:16「そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた」

このことばが象徴するように、イスラエルは混乱を極めていた。この箇所を読み、あなたはどのように感じるだろうか。

私たちの王の王である、イエス様を心の王座にお迎えし、歩むことが出来るだろうか。それとも、自分が王になり、良いと思えることを行っているか。

祈り、考えてみよう。
そして、はっきりと告白しよう。